

令和6年度 栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価

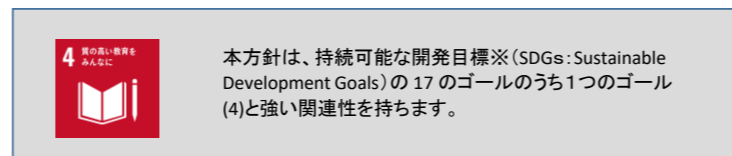
	目標項目	令和3年度 (計画策定年)	令和4年度	令和5年度	現在値 (令和6年度)	目標値 (令和6年度)	目標値 (令和8年度)	方針での 該当箇所	重点取組項目	課題・問題等	自己評価	外部評価	外部評価
1	図書館実利用率	15.9%	15.9%	15.7%	16.0% (82%)	19.4%	22.0%	①②	①市民のニーズにあわせた資料選定の実施 ②来館のきっかけとなる行事の実施 ③居心地の良い図書館を目指したスペースの見直し ④開館日の見直し検討	引き続き、ニーズにあわせた資料の選定を行うとともに、非来館者にPRできる事業や、より効果的な広報活動を行う必要がある。開館日の変更を着実に実施するとともに、変更を効果的にPRする必要がある。	2	3	令和5年度実績と比べ実利用率は上昇したが、令和6年度目標値は未達成、現状の増加率では令和8年度の最終目標値達成は困難であると考えられる。しかしながら、令和6年度は、移動図書館の再導入や休館日の見直し準備、予約方法の見直し、西館の学習コーナー「学BASE」の設置等、実利用率向上に向けた前向きな取組みが様々実施された点は大きい評価でき、さらに実利用率拡大に向けた取組みを期待したい。
2	年間貸出冊数	532,651冊	499,156冊	492,033冊	472,239冊 (86%)	547,000冊	560,000冊	①②	①魅力ある蔵書構成となるような資料の選定の実施 ②展示等による図書館蔵書資料の紹介事業の実施 ③使いやすい図書館となるような資料の配置見直しの実施 ④貸出冊数、インターネット予約サービスの見直し検討	蔵書自体をより魅力あるものにしていくと同時に、図書館に行きたいと思わせる雰囲気づくりや、読みたい本との出会いがある本の展示を行う必要がある。貸出冊数の変更を着実に実施するとともに、変更によって生じた利用の変化を捉え、蔵書に反映させていく必要がある。	2	3	年間貸出冊数が令和5年度からさらに減少しており、現状では令和8年度の最終目標値の達成は困難である。実利用率率が増加しながら貸出冊数の増加がみられないということは、図書館に来ても借りたい本がない状態であることが主な要因と考えられる。本館・西館両館の開架冊数約19万冊に対して新刊の受入冊数が約1万冊、開架図書の新着率が5%程度では、来館者にとっては、いつ来ても変わり映えのしない棚に見えてしまっているのではないだろうか。新刊書の受入冊数増に向けた取組みが引き続き必要である。一方で、移動図書館の再導入や休館日見直し、予約方法を見直し等、図書館に来なくても図書が利用できる具体的な方向性を打ち出し、取組まれた点は評価でき、この取組みが令和7年度の利用率増に繋がることを期待したい。
3	市民一人当たりの年間貸出冊数	7.6冊	7.1冊	7.0冊	6.7冊 (86%)	7.8冊	8.0冊	①②					
4	12歳以下市民一人当たりの児童書年間貸出冊数	21.0冊	19.6冊	19.9冊	20.1冊 (89%)	22.5冊	23.5冊	③⑤	①ブックスタートと連携した利用啓発の実施 ②展示等を通じた子ども世代への読書普及活動の強化 ③児童館の講座等を通じた利用啓発の実施 ④西館「学BASE」開設 ⑤移動図書館の訪問先の拡大	来館経験の少ない子どもの来館のきっかけとなるような魅力的な行事を実施する必要がある。移動図書館の訪問先をさらに拡大していく必要がある。	2	3	令和6年度は全体の貸出冊数が減少しているなかで、児童の貸出冊数、カード登録率は概ね年度目標を達成できたことは評価できるが、令和8年度目標値を達成するには、さらに児童向けサービスの拡大、充実が必要がある。令和6年度中の移動図書館巡回の再開、休館日の見直し、予約方法の見直し、西館の「学BASE」の設置等、子ども世代の利用拡大に向けた具体的な取組みが実施されたことはたいへん評価できる点である。令和7年度はこれらの取組みが市民に支持され、子どもの世代の利用拡大に繋がることを期待したい。
5	15歳以下の貸出カード登録率	65.9%	64.1%	63.9%	66.7% (96%)	69.5%	72.0%	③⑤					
6	障がい者サービス利用人数	13人	11人	11人	7人 (44%)	16人	20人	①② ⑤⑥	サービス対象者への広報の実施	必要な人にサービスの情報が届くよう、福祉担当課との連携を深めていく必要がある。音訳図書へのアクセス環境が変わる中、障がい者サービスの在り方を考えていく必要がある。	2	2	利用人数の拡大が不十分で年度目標を達成できておらず、現状の取組みでは最終目標値の達成も困難な状況が見受けられる。障害者サービスは現在「図書館利用に障害のある人々へのサービス」という捉え方が一般的で、サービスの対象となる市民、サービスの方法が多岐にわたることから、担当する職員配置を含めて、サービスのかたち、サービスを受ける市民への情報の周知・広報のあり方等、具体的な方策・方向性が示されることを期待したい。
7	年間蔵書購入冊数	9,645冊	10,041冊	10,346冊	9,871冊 (89.7%)	11,000冊	11,000冊	①②④	購入計画に基づいた選定、購入の実施	出版状況の変化に応じ、計画を見直ししながら、適正な資料購入を行う必要がある。図書価格の上昇により、資料費の見直しが必要である。	2	3	年度目標値を若干下回ったが、ほぼ目標通り計画的に新刊書の購入ができていた点は評価したい。しかし、新刊書の購入が計画的に実施されている割に、貸出冊数が伸び悩んでいる点については、その要因、対応策を図書館として分析し来年度以降の新刊購入に活かしていただきたい。「基本的運営方針」の最終年度まで継続して目標値を達成されることが望まれるが、「第3期運営方針」策定時には、栗東市の人口規模、市民の図書館利用にふさわしい年間図書購入冊数の目標は何冊か。高い目標値の設定を視野に入れた資料整備のあり方を検討いただきたい。
8	司書有資格者の割合(正規職員中) [会計年度任用職員を含む全職員中の割合]	100%	100%	100%	100% [93.3%]	100%	100%	①②	①司書によるレファレンス・読書相談等の実施 ②研修等による司書のスキルアップ	引き続き、司書によるレファレンス等、司書のはたらきについて知ってもらい、認知度を高めていく必要がある。	3	4	司書有資格職員を計画どおり100%確保が継続できている点は高く評価でき、今後もこの職員体制が維持・継続されることが望まれる。自治体財政が依然厳しいなかで、図書館の規模に応じた司書有資格職員確保の必要性を、行政当局だけでなく、図書館利用者である市民に対しても広く理解してもらえよう取組みに努めていただきたい。
9	郷土資料の収集冊数	188冊	355冊	131冊	126冊	—	—	④	②各種出版情報のきめ細かな収集 ③自費出版に係る展示・イベントの実施	必要な資料を収集できるよう、市役所内への資料提供依頼を強化する必要がある。また引き続き、出版情報を丁寧に収集する必要がある。	3	3	「基本的運営方針」では目標値の設定がされていないが、紙媒体の郷土資料については毎年度着実に資料収集ができていた点は評価したい。郷土資料収集冊数を増やすには、市内の行政機関や地域の各種団体等でのどのような資料が生み出されているかを把握することが必要である。近年は地域資料、地方行政資料については従来の紙媒体での発行だけでなく、いわゆる電子化、インターネット上でのみ公表されるものが急速に増えているため、その点を見越した郷土資料収集のあり方を検討されることが望まれる。

項目9については、目標値に含まれていないが、基本的運営方針の項目の評価数値として列記している。

現在値の下の丸カッコ内の数値は、目標値に対する達成率

「方針での該当箇所」は、「栗東市立図書館基本的運営方針」の基本運営方針6項目(下記)のうちの該当項目

- ①市民一人ひとりの自主的な生涯学習を支えます
- ②暮らしや仕事の課題解決を支援します
- ③学校、家庭、地域と連携して子どもの読書活動を推進します
- ④郷土の歴史や行政資料を収集、保存、提供します
- ⑤市民との協働により、図書館運営や活動の充実に努めます
- ⑥図書館利用が困難な人を支援します



評価基準

5	当初設定した目標を著しく上回る成果をもって達成
4	当初設定した目標を上回る成果をもって達成
3	当初設定した目標を概ね計画どおりに達成
2	当初設定した目標を未達成